

水稲の生育状況（8月25日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2026年8月27日

1 生育状況

本年の出穂期は、平年値*と比べて、平年並みからやや遅くなりました。

表1 神奈川県農業技術センター（平塚市）における出穂期

作期	品種名	本年	平年*
6 月 上 旬 植	はるみ	8月8日	8月9日
	にじのきらめき	8月9日	2025年の値 8月5日
	てんこもり	8月12日	8月14日
6 月 中 旬 植	はるみ	8月15日	8月15日
	にじのきらめき	8月16日	2025年の値 8月12日
	てんこもり	8月20日	8月18日

* ‘はるみ’ 2016～2025年までの過去10年平均 ‘にじのきらめき’ 2025年の値
‘てんこもり’ 2018～2025年までの過去8年平均 との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が8月20日に発表した1か月予報（8月22日～9月21日）では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並」、日照時間は「ほぼ平年並」の見込みとなっています。今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

（1）水管理

本年は出穂期以降の平均気温がほぼ平年並みに推移しており、高温障害の発生は少ないと予想されます。根の活性を維持し、玄米の充実を促すため、「間断かん水」を行いましょう。早期落水は玄米の充実を妨げ、未熟粒や胴割粒等の障害粒の発生を助長するため、可能な限り落水時期を遅くしましょう。

（2）成熟期（収穫時期）

出穂期が平年並みからやや遅くなっていますが、出穂期以降の気温の推移から登熟期間は平年並みと予想されます。出穂期以降の日平均気温の積算温度から予想される成熟期は、表2のとおりです。

収穫時期は、今後の気温の推移、黄化籾割合、籾水分、倒伏程度等から総合的に判断してください。収穫適期の黄化籾割合の目安は‘はるみ’ ‘てんこもり’は約85%、‘にじのきらめき’は約90%です。

収穫の遅れは、品質低下につながりますので、必ず適期に収穫しましょう。

表 2 神奈川県農業技術センター（平塚市）における成熟期と本年の登熟積算到達予測日

作期	品種名	平年*		登熟積算到達予測日** (本年の成熟期予想)		
		登熟日数	成熟期	1,000度	1,100度	1,200度
6 月 上 旬 植	はるみ	38日	9月16日	9月15日	9月19日	－
	にじのきらめき	40日	9月14日	－	9月21日	9月25日
	てんこもり	39日	9月23日	9月20日	9月24日	－
6 月 中 旬 植	はるみ	39日	9月23日	9月23日	9月28日	－
	にじのきらめき	41日	9月22日	－	9月29日	10月4日
	てんこもり	42日	9月29日	9月30日	10月4日	－

* ‘はるみ’ 2016～2025 年までの過去 10 年平均 ‘にじのきらめき’ 2025 年の値

‘てんこもり’ 2018～2025 年までの過去 8 年平均 との対比

** アメダス海老名の平均気温（8月23日までは本年値、8月24日以降は平年値）で計算

（３）斑点米カメムシ類の対策

斑点米カメムシ類は水田内および周辺の雑草で増殖し、出穂期以降に粃を吸汁して斑点米を発生させ、品質低下の要因となります。畦畔雑草の除草は収穫の２週間前以降に行いましょう。県内の病虫害発生状況については下記リンクをご参照ください。

（４）特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の対策（図１）

南米原産の多年生雑草で、相模川水系におけるほとんどの市町の水田で侵入を確認しています。定着すると根絶が困難で水稻に被害をもたらすため、早期発見・防除が重要です。

水田に疑わしい雑草が見られた際は、最寄りの JA または農業技術センターにご連絡ください。

対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。



図１ ナガエツルノゲイトウ

（５）収穫作業における異品種・異物混入防止対策

倒伏や刈り遅れた場合、収穫時に株が抜けて小石等の異物が混入しやすくなるので、高い位置で刈り取ってください。

コンバインや乾燥機等は、品種が替わるごとに、エアーコンプレッサー等を使って清掃を徹底してください。

（６）熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を避けて作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。対策方法の詳細は、下記リンクをご参照ください。

（７）台風対策

台風の襲来が予測される場合、被害の回避や軽減のため、次の対策が有効です。

台風などの大雨時の用排水路や水田等の見回りは大変危険です。気象情報及び周囲の状況を十分に確認し、安全な状況になるまでは行わないようにしてください。

ア 事前防止対策

- ・用排水路に詰まり等が無い点検します。定期的に清掃を行うことで、浸水及び冠水時の速やかな排水に備えます。
- ・可能な地域では、深水管理を行い、急性萎ちょうや倒伏防止に備えます。

イ 事後対策

- ・損傷で茎葉からの蒸散量が多くなるので、台風通過後は湛水を保ちます。
- ・風台風、特に台風が北側を通過する場合は、潮風害（塩害）を受けやすいため、台風通過後、可能な場合は動噴等を利用して真水を散布し、洗い流します。

【参考】

No.	参照内容		QRコード
1	病虫害防除対策	農業技術センター病虫害防除部 「令和8年度病虫害発生予察情報」	
2	ナガエツルノゲイトウ	農研機構 HP 「水田におけるナガエツルノゲイトウ防除マニュアル」	
3	熱中症対策	農林水産省 HP 「熱中症対策パンフレット＆熱中症対策関連情報集」	
4	台風対策	神奈川県 HP 「農業気象災害の技術対策」	

問合せ先

神奈川県農業技術センター

普及指導部 作物加工課

TEL : 0463-58-0333 内線381～384